

青い宝石で異世界の湖へワープ 現れた女性三人とセックス

ヒロヤはスマホを入れていたはずの右ズボンのポケットをまさぐった。

ニュースでもネットで見ようと思ったのだ。すると、何か固いモノが手に当たった。スマホのモニター裏側にひっつくようにゴロゴロしている。青く光る宝石だった。

「何だこれは！！？」

とてもキレイでジュエリーショップでも買うと高そうではあるが・・・。

しかし普通の宝石より異質な感じがする。

しかしヒロヤはその宝石を住宅のカゲでよく見えない。太陽の光にかざしてみることにした・・・。

ピカッと光って目の前が真っ白になった。

気がつくときさっきとは全く違うところにいる。湖のホトリだった。浜辺はどこまでも広がっており、浜辺手前には木々が生えそろう、かすかに対岸の工場地帯や住宅街が霞んで見えている。何が起こったのかサッパリ分からずキョロキ

ヨロと辺りを見渡していると、浜辺の手前のアスファルトの道から人が……。

「こんにちは！！」

二人の女性が笑顔で近づいてきた。

「こんなところで立ち往生して、何してるんですか！？」

白いキャミソールを二人とも着ている。そう言いながら、両手で大きく膨らんだ胸を下からクイックイッと二回押し上げて見せた。

「あなたのズボンの股間、すっごくもっこりしているよね！！大きな巨根、詰まってるんでしょ！！」

思いきり笑みを浮かべる女性たち。

何が起こったか分からずに立っておどおどしているヒロヤに言った。声のトーンは元気。

「い、いや……」

言葉を濁すヒロヤ。

「突然こんなところにワープした」

などと言えばおかしがられる。その言葉を飲みこみ、ここまでの過程を思い返す。

「あの宝石って……」

確か今穿いているズボンは一週間程前に確かコインランドリーへ洗濯に出したのを覚えている。だけどその時はポケットの中にはこんなものはなかった。そしてあの宝石を太陽にかざしよく見たら突然こんなところに……。

漫画なんかに出てくるタイムスリップやワープがまさに現実として起こった状態だ。

湖をよく見まわす。昔、釣りに行っていた湖とよく似ているが少し違うような気もする。位置を変えただけか……というところでもない、やはり湖自体一度も来たことがないような気がする。あやふやな不思議な気持ちを自分で説明できない感じ。

そんなことを思いながら、目の前の二人に言う。

「い、いや……な、なんでもないです……湖を見に来たっていうか……」

すると、何故か！！？

二人は服を脱ぎ始めた。

————— 体験版は以上になります。 —————